

第30回伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト 入賞作品決定



最優秀賞（宮城県知事賞）「旭日に響く羽音」青田 真 宮城県利府町

第30回記念の今回、県内外から95点の応募があり、日本写真家協会の井村淳氏が審査を行った結果、20点の入賞作品が決まりました。当センターでは、応募全作品を2月2日よりご覧頂けますのでご来館下さい。その他、入賞作品を右記の各施設に巡回展示いたします。

展示スケジュール

期間	会場	
2/2～3/31	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリーセンター	全作品
5/1～5/27	登米市伊豆沼・内沼サンクチュアリーセンター	入賞作品
6/1～6/29	登米市役所 1階ロビー	入賞作品
7/1～7/29	栗原市役所 1階ロビー	入賞作品
8/1～8/31	JRくりこま高原駅オアシスセンター	入賞作品

寒波で凍結した沼

年末から続く厳しい寒波で、沼の凍結が続いています。凍結していないところはマガンのねぐらがあるとこで、マガンが泳ぐことで水が動くため、凍結しにくいのです。朝、マガンが飛び去った後はオオハクチョウやカモ類が氷の縁で休息しています。

”鳥穴”と呼ばれるマガンのねぐら跡で休息するカモたち

2000/01年の寒波の時には20～30cmの積雪が1か月以上続き、仙台で10,000羽を超えるマガンが記録されました。今回の寒波は現時点ではそこまで厳しくないようです。



滝川高校のみなさんが伊豆沼で実習



文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定されている北海道滝川高等学校の皆さんが、1月6日に伊豆沼において実習を行いました。はじめに、当財団の研究者が伊豆沼・内沼の自然環境や保全活動の概要について講義を行いました。続く野外実習では、伊豆沼において絶滅が危惧されるチョウジソウが生育できる環境の整備と、系統保存していたチョウジソウの移植を行いました。伊豆沼・内沼には、水鳥をはじめ多くの生き物が生息しています。これらは沼の中だけでなく、沼周辺の湿原や湖畔林などを利用して生活しています。多くの生き物の住む伊豆沼・内沼を守るためには、これらの多様な環境を保全する必要があることをご理解頂けたのではないのでしょうか。

南三陸でコクガンの研究成果報告会が開催されました

財団と南三陸ネイチャーセンター友の会では志津川湾で越冬するコクガンにGPSを装着して、渡り経路など謎の多いコクガンの生態解明に取り組んでいます。12月17日に”GPS追跡でわかった南三陸のコクガンの暮らし”と題し、オンライン配信も含めた研究成果の報告会が南三陸町自然環境活用センターで開催されました。オンライン視聴も含め100名を超える方々にご覧いただき好評を博した他、新聞等でも報道されています。

下記のURLまたはQRコードより視聴することができます。

<https://www.youtube.com/watch?v=3YSTwBNdPM0&authuser=0>



伊豆沼・内沼生き物図鑑（ジュズカケハゼ）

ジュズカケハゼは、平野部の河川や湖沼に生息するハゼの仲間です。よく水面に浮かんでおり、のんびりした印象の魚です。魚の仲間では珍しいことなのですが、メスに婚姻色が現れます。ヒレが黒く染まり、黄色と黒色の横縞が現れるなど、普段の地味な姿とは違う美しい姿に変化します。

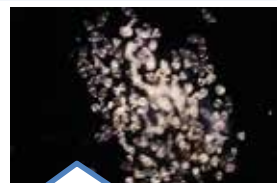
伊豆沼・内沼には大型の二枚貝であるカラスガイが生息しています。カラスガイは水中の汚れを濾過する役割を持つため、沼の環境保全上重要な生物となっています。このカラスガイの幼生はジュズカケハゼのヒレやエラにとりつく習性を持ちます。カラスガイにとってジュズカケハゼは、無くてはならない存在なのです。



大きさは5cmほど



大砂にもぐることもある



カラスガイの幼生 拡大写真



矢印が、ひれについたカラスガイの幼生

【伊豆沼・内沼研究集会の開催中止について】

令和3年2月13日（土）に開催を予定しておりました「第15回 伊豆沼・内沼研究集会」について、これまで準備を重ねてきましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら中止とさせていただきます。新型コロナウイルスがおさまった暁には、再び皆様とお会いできることを楽しみにしております。



〒989-5504 宮城県栗原市若柳上畑岡敷17-2
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者 (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

Tel0228-33-2216 Fax0228-33-2217
ホームページ: <http://izunuma.org/>
E-mail: izunuma@circus.ocn.ne.jp

